# 2019年3月期 第1四半期 決算説明資料

- 1) 決算概要
- 2) 決算のポイント
- 3) 商品群別売上高
- 4) 国内壳上高
- 5) 海外壳上高
- 6) トピックス
- 7) 減価償却費と研究開発費
- 8) 上期・通期業績見通し

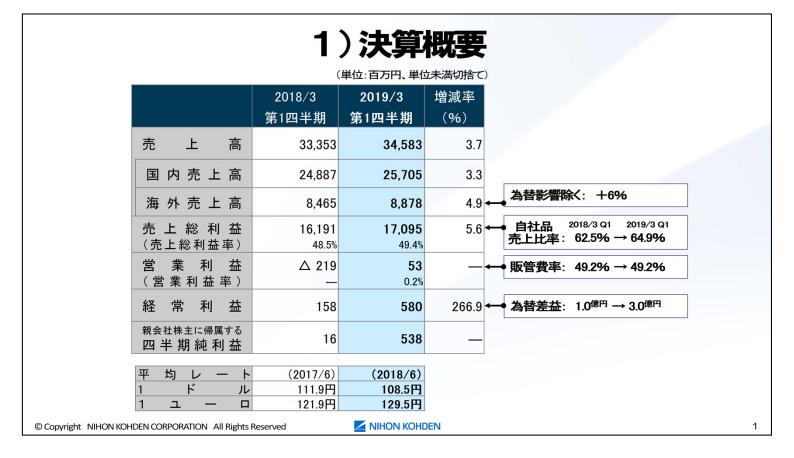
[参考] 商品群別売上高見通し

為替の影響

### 日本光電工業株式会社

銘柄コード:6849 2018年8月1日





- 売上高は3.7%増の345億円となりました。
- 国内売上高は、3.3%増の257億円となりました。病院、診療所といった市場別の取り 組みを強化した結果、病院市場が堅調に推移し、PAD市場におけるAEDの販売も好 調でした。全ての商品群で増収となりました。
- 海外売上高は、4.9%増の88億円となりました。現地通貨ベースでは、6%増加しました。米州、欧州、アジア州ともに増収となり、特に米国、中南米が好調でした。
- 粗利率は、国内外で自社品の販売に注力した結果、商品ミックスが良化し、0.9ポイント上昇しました。このため、営業利益は53百万円と、黒字を確保することが出来ました。経常利益は、為替差益の計上により5億円となりました。

# 2) 決算のポイント

## 売上高:前年同期比3.7%増

・国内:市場別の取り組みを強化した結果、病院市場が堅調に推移。 PAD市場におけるAEDの販売も好調。全ての商品群が増収。

・海外:米州、欧州、アジア州ともに増収。特に米国、中南米が好調。

#### 営業利益:53百万円 (前年同期は219百万円の営業損失)

- ・粗利率は、国内外で自社品の販売に注力した結果、改善。
- ・増収効果と粗利率向上により、研究開発投資等の販管費の増加を吸収し、 黒字を確保。

### 経常利益:前年同期比 266.9%增

為替差益が増加。

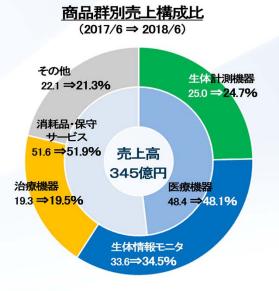
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved



2

# 3) 商品群別売上高

	_		(単位:百万円)				
	2018/3 第1四半期	2019/3 第1四半期	増減率 (%)				
生体計測機器	8,342	8,535	2.3				
生体情報モニタ	11,217	11,920	6.3				
治療機器	6,422	6,741	5.0				
そ の 他	7,370	7,386	0.2				
売 上 高 合 計	33,353	34,583	3.7				
(ご参考)							
消耗品・保守サービス 17,215 17,935							



 $\hbox{@ Copyright $NIHON$ KOHDEN CORPORATION $All$ Rights Reserved}$ 

**NIHON KOHDEN** 

生体計測機器は2.3%増の85億円、 生体情報モニタは6.3%増の119億円、 治療機器は5.0%増の67億円、 その他は0.2%増の73億円となりました。

● 消耗品・保守サービスも4.2%増と堅調に推移しました。消耗品・保守サービスの売上 構成比率は51.9%に上昇しました。

# 4)国内壳上高

### 【商品群別売上高】

(単位:百万円)

(億円)	Killy.	91/1.17 [-1-10	J.4
250	248	257	7.04
250	32	36	■その他
200	38	35	診療所
150	64	65	■私立病院
100	66	67	■官公立病院
50	46	51	■大学
0	2017/6	2018/6	

【市場別売上高】

	2018/3 第1四半期	2019/3 第1四半期	増減率 (%)
生体計測機器	6,818	6,850	0.5
生体情報モニタ	6,943	7,337	5.7
治 療 機 器	4,726	4,944	4.6
そ の 他	6,398	6,573	2.7
売 上 高 合 計	24,887	25,705	3.3

【市場別】 大学病院市場が好調に推移し、官公立、私立病院市場も堅調。診療所市場は前年同期を下回る。

【商品群別】 生体計測機器: 心電計群が好調に推移し、心臓力テーテル検査装置群も堅調。脳神経系群は前年同期を下回る。

生体情報モニタ: 大学病院市場でベッドサイドモニタや臨床情報システムが好調に推移。

治療機器: AEDが好調に推移。ペースメーカ・ICDも堅調。

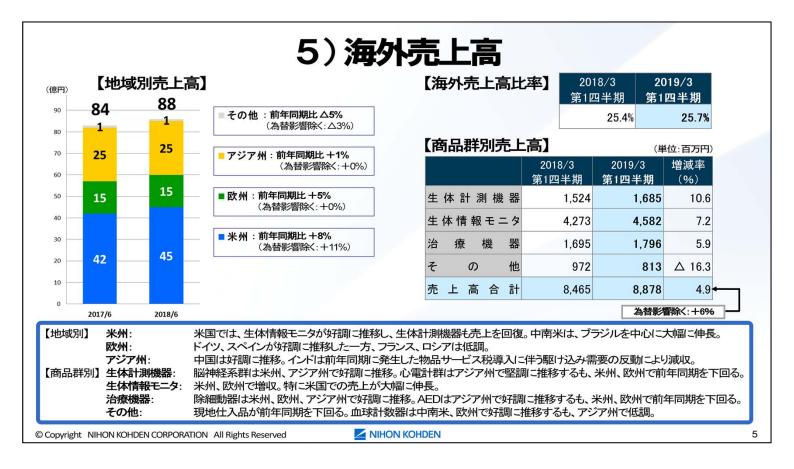
その他: 医療機器の設置工事、保守サービスが好調に推移。検体検査装置は前年同期を下回る。

Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

4

- 国内売上高は8億円増の257億円となりました。
- 大学病院市場は、新築移転商談もあり、好調に推移しました。また、官公立、私立病院市場も堅調に推移しました。診療所市場は、仕入品の減少や、新製品の発売を前に血球計数器の販売が減少したことから、前期を下回りました。6月に発売した血球計数器の新製品につきましては、お客様の反応も良く、診療所市場の売上回復に寄与すると期待しています。
- どの市場におきましても、4月の診療報酬改定に対応した設備投資の動きはあまり見られませんでしたが、大学、官公立病院市場での更新需要を着実に捉えるべく、営業活動に注力したことが、堅調な売上成長につながっています。
- 生体計測機器では、ホルター心電計の新製品効果もあり、心電計群が好調に推移しました。心臓カテーテル検査装置群も、電極カテーテルを中心に堅調に推移しました。 脳神経系群は前期を下回りました。
- 生体情報モニタでは、大学病院市場でベッドサイドモニタや臨床情報システムが好調 に推移しました。
- 治療機器では、AEDが好調に推移したほか、ベースメーカ・ICDも堅調でした。除細動器は前期並みとなっています。
- その他では、医療機器、特に生体情報モニタの設置工事が好調に推移したほか、保守サービスも好調でした。検体検査装置は前期を下回りました。



- 海外売上高は4億円増の88億円、現地通貨ベースでは6%増加しました。海外売上 高比率は25.7%となりました。
- 米州では、米国は、生体情報モニタが好調に推移したほか、脳波計の営業組織を見直した結果、生体計測機器も売上を回復しました。中南米は、現地販売・サービス体制の強化を進めるブラジルを中心に好調に推移しました。
- 欧州では、販売・サービス体制の整備を進めるドイツが好調に推移したほか、スペインも好調でした。フランス、ロシアは低調に推移しました。
- アジア州では、中国は好調に推移しましたが、インドは前期に発生した物品サービス 税の導入に伴う駆け込み需要の反動もあり、減収となりました。中国は現地通貨ベース、円ベースともに二桁の増収となりました。中国は12月決算であり、上期も同様に 二桁成長の見通しです。インドにつきましては、新税制度の影響は落ち着きつつあり、 今後、売上は回復すると見ています。

# 6)トピックス



- 6月に診療所市場向けに発売した検体検査装置は、当社初の一体型の血球計数・ CRP測定装置です。採血管のキャップを取らずに測定できるため、感染リスクの低減 に役立ちます。また、測定時間は約3分20秒と短く、異常値を検出した場合に画面の カラーで再測定を促す、新しい機能も搭載しました。海外展開は下期を予定していま す。
- 医療機器リモート監視システム MDリンケージも同時に発売しました。機器のエラーメッセージやメンテナンス情報など稼働情報をサーバに自動送信し、コールセンタがリモート監視します。万が一、機器の異常や故障が発生した場合、速やかなサポートが可能です。MEK-1303からサービスを開始し、順次対応機器を追加する予定です。

# 7) 減価償却費と研究開発費

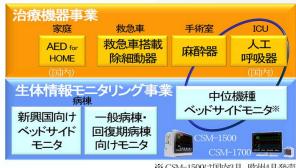
(単位:百万円)

					2018/3 第1四半期	2019/3 第1四半期	増減額	2018/3 実績	2019/3 計画
減	価	償	却	費	770	779	9	3,338	3,900
研	究	開	発	費	1,633	1,856	222	7,226	8,500
							設備投資額	3 430	4 000

#### 【2019/3期 設備投資計画】

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、 工場生産設備、基幹システムのサーバ更新

#### 【2019/3期新商品(予定)】



※ CSM-1500は国内3月、欧州4月発売 CSM-1700は国内、欧州8月予定。 両機種ともに米国は下期予定。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

**NIHON KOHDEN** 

- 減価償却費は前期並みの7.7億円となりました。計画どおりの進捗です。通期の減価 償却費は39億円、設備投資は40億円で変更ございません。
- 研究開発費は2.2億円増の18.5億円となり、計画を若干下回りました。今期は複数の 生体情報モニタの発売を予定していますが、想定よりも維持改良の工数がかかった ため、新製品の開発に若干遅れが出ています。今期中の発売に変更はなく、通期の 研究開発費も85億円で変更ございません。

# 8) 上期・通期業績見通し

	2018/3 実績		2019/3 予想			
	上期	通期	上期	増減率 (%)	通期	増減率 (%)
売 上 高	766	1,742	800	4.4	1,800	3.3
国 内 売 上 高	562	1,281	_	_	1,307	2.0
海外売上高	204	461			493	6.9
売 上 総 利 益 (売上総利益率)	365 47.6%	827 47.5%	_	_	<b>868</b> 48.2%	4.9
営業利益(営業利益率)	31 4.1%	1 <b>45</b> 8.3%	<b>31</b> 3.9%	△ 0.9	<b>150</b> 8.3%	3.3
経 常 利 益	37	145	31	△ 16.7	150	3.4
親会社株主に帰属する 当期 純 利 益	25	91	21	△ 17.4	103	12.5
海 外 売 上 高 比 率	26.6%	26.5%			27.4%	

【地	【地域別海外売上高】 (単位:百万円)							
			2018/3 実績	2019/3 予想	増減率 (%)			
米		州	22,000	23,400	6.4			
欧		州	8,462	9,100	7.5			
ア:	ジァ	州	13,634	14,100	3.4			
そ	Ø	他	2,008	2,700	34.4			
海	外	計	46,105	49,300	6.9			

為替影響除く: +11%

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

● 第1四半期の実績は概ね計画どおりに進捗しており、上期および通期の業績予想に 変更はございません。上期売上高は、800億円を見込んでいます。

- 国内は、上期の売上高は一桁前半の増収となる見通しです。引き続き、市場別の販売活動に取り組むものの、複数の商談で稼働が下期にずれる見込みであり、中位機種のベッドサイドモニタ、血球計数器等の新製品も、本格的には下期以降に寄与すると見ています。また、粗利率改善のため、引き続き、診療所市場を中心に、仕入品の販売をコントロールする予定です。
- 中位機種のベッドサイドモニタにつきましては、今月、追加機種としてCSM-1700を発売します。3月に発売したCSM-1500よりも画面サイズが大きく、本体と入力箱を分離・設置することができるため、様々なレイアウト構成が可能です。両機種ともに、急性期病院の手術室/ICU向けモニタとして販促を強化します。
- 海外は、上期の売上高は一桁半ばの増収となる見通しです。地域別では、米州、アジア州で二桁成長を見込んでいますが、欧州は前期並みの見通しです。米国では、脳波計、生体情報モニタともに、計画どおり順調に推移しています。欧州につきましては、4月にモニタの新製品を発売しましたが、各国語対応に時間がかかっており、日本と同様、本格的な売上への寄与は下期以降と見ています。
- 上期粗利率は、前期より改善し、48%台半ばとなる見通しです。粗利率の改善と販 管費の伸びの抑制により、上期の営業利益31億円を確保したいと考えています。

#### [参考] 商品群別売上高見通し/為替の影響 (単位:百万円) 増減率 2018/3 2019/3 実績 予想 構成比(%) (%) 39,323 40,200 2.2 体 計 機 22.3 体情 報 モニ 59,229 62,500 34.7 5.5 治 療 機 32,892 33,600 18.7 2.2 そ の 他 42,804 43,700 24.3 2.1 高 計 174,249 180,000 100.0 3.3 (ご参考) 消耗品・保守サービス 75,505 78,100 43.4 3.4 平均レート 為替感応度の概算値(年間) 2018/3 2019/3 売上高 ル 111.0円 105円 ル 3.0億円 1.1億円 口 130.0円 130円 口 0.5億円 0.2億円 NIHON KOHDEN © Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

● 通期の商品群別の売上高予想につきましても、変更ございません。

この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

【担当部署】 経営戦略部 【連 絡 先】 TELO3-5996-8003

NIHON KOHDEN